



〔海の状況 (11/16~12/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年よりはなほ高め (平年差 1.5℃~) で推移した。
(図 1)
※神子平年は、1988 年~2017 年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年並み (平年差±0.5℃) ~やや高め (平年差 0.5℃~1.0℃) で推移した。(図 2)

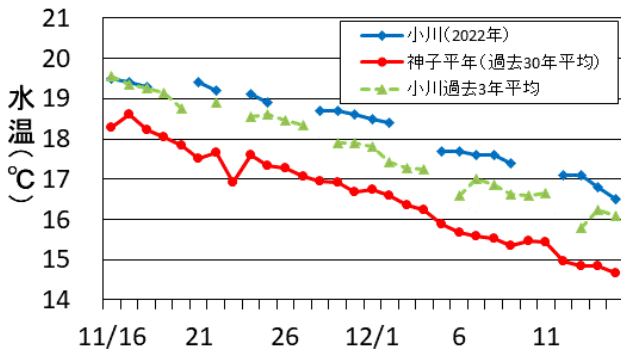


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

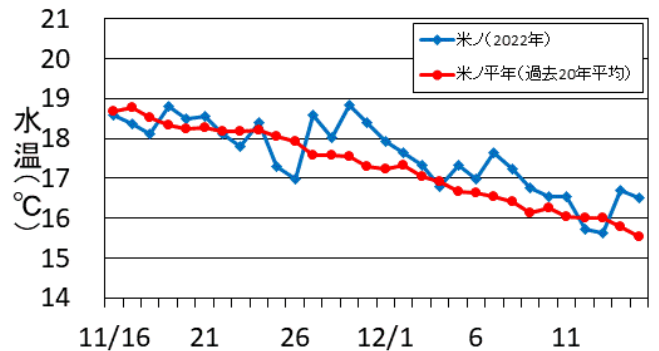


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去3年平均は2019年~2021年の小川地先の平均値であり、2年以上の水温データが揃った日のみ取り扱っている。

〔若狭湾および周辺海域の海況：11月〕

11月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、若狭湾沖で20℃~22℃の範囲が大きくなっていた。水深50mでは、若狭湾沖で20℃~22℃の範囲が大きくなっていた。水深100mでは、若狭湾北西沖で8℃~14℃の冷水塊が確認された。水深200mでは、若狭湾沖で2℃~4℃の範囲が大きくなっていた。(図3)

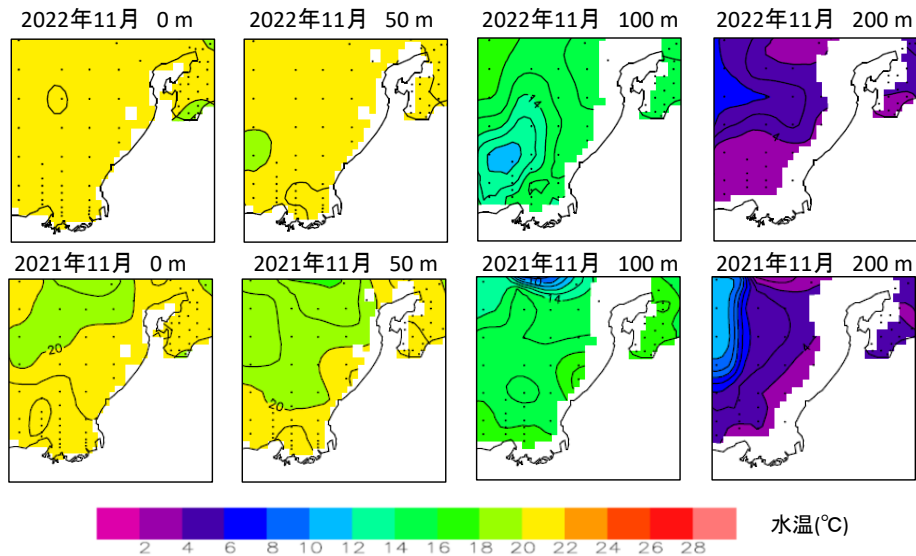


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

「越前がに」の漁模様

11月の「越前がに」漁模様をお知らせします。

○期間中の操業延日数は643日(前年:709日)で、操業隻数は62隻(前年:63隻)でした。

○漁獲量は、ズワイガニ(雄ガニ)は73t(前年:56t 対前年比:130%)、セイコガニ(雌ガニ)は142t(前年:136t、対前年比:104%)と、ともに前年を上回りました。

○11月は、資源の増加に加え好天に恵まれたことにより、国が定める漁獲可能量(TAC)の半分を越えたため、漁業者は、休漁やサイズの小さいものは海に放すなど漁獲制限を行い、シーズンの終わりまで安定供給できるように取り組んでいます。
(漁業管理グループ 松宮 由太佳)

〔県内の漁模様：11月〕

2022年11月の県内の総漁獲量は674tで、前年同月(710t)を36t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は314tで、前年同月を75t下回った。アジ類、ブリ類は上回ったが、サバ類、シイラ、サワラは下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は314tで、前年同月を30t上回った。キダイ、アカガレイ、ズワイガニは上回ったが、その他カレイ、カマスは下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は45tで、前年同月を8t上回った。スルメイカが上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(11月)

定置網	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
アジ類	38,794	17,310	35,724	21,484	3,069
(アジ)	12,924	11,384	18,248	1,540	-5,324
(小アジ)	21,674	5,179	15,716	16,495	5,958
(アオアジ)	4,196	747	1,760	3,449	2,436
サバ類	34,034	57,205	13,610	-23,171	20,424
マグロ類	1,680	1,400	1,063	280	616
カツオ類	8,160	7,556	19,538	604	-11,379
ブリ類	50,070	15,074	92,623	34,996	-42,553
(ブリ)	14,098	1,223	7,318	12,875	6,780
(ウラサ)	6,383	4,601	11,008	1,783	-4,625
(ハマチ)	11,404	1,775	9,178	9,629	2,226
(ツバス)	18,184	7,461	63,280	10,723	-45,096
(アオコ)	0	14	1,839	-14	-1,839
ヒラマサ	943	3,342	12,443	-2,398	-11,499
シイラ	10,187	35,561	16,666	-25,374	-6,479
サワラ	111,057	156,048	160,099	-44,991	-49,042
サケ、マス	862	1,962	4,691	-1,100	-3,828
マダイ	1,745	2,639	5,684	-894	-3,939
その他タイ	2,610	4,902	4,489	-2,292	-1,879
スズキ	2,011	4,280	4,770	-2,269	-2,760
カマス	2,739	2,471	9,464	268	-6,725
フグ類	3,455	2,406	2,159	1,049	1,296
アオリイカ	16,015	18,343	20,010	-2,328	-3,994
ソデイカ	1,342	1,947	11,060	-605	-9,718
その他	28,730	56,663	61,138	-27,934	-32,408
合 計	314,434	389,109	475,231	-74,675	-160,797

底びき網	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
タイ類	10,275	4,197	11,735	6,078	-1,460
(キダイ)	7,698	2,355	9,281	5,343	-1,583
(その他タイ)	2,265	728	1,053	1,537	1,212

底びき網	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
カレイ類	44,312	35,489	94,784	8,824	-50,472
(アカガレイ)	40,217	30,232	82,628	9,985	-42,411
(その他カレイ)	4,095	5,256	12,156	-1,161	-8,061
カマス	791	8,526	5,197	-7,735	-4,406
ニギス	1,098	149	1,504	948	-406
スルメイカ	1,052	148	699	904	353
タコ類	1,215	1,545	3,367	-330	-2,151
ズワイガニ	72,136	55,063	73,880	17,072	-1,744
セイコガニ	141,208	135,784	114,956	5,424	26,252
アカエビ	23,077	23,017	23,066	61	12
その他エビ	4,099	4,060	6,430	40	-2,331
その他	14,681	15,677	35,824	-996	-21,143
合 計	313,946	283,655	371,441	30,291	-57,495

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
ブリ類	605	1,082	1,586	-477	-981
タイ類	7,159	6,491	7,118	667	41
(マダイ)	1,221	507	1,454	715	-232
(キダイ)	5,564	5,056	5,286	509	278
(その他タイ)	373	929	378	-556	-5
アマダイ	6,353	6,915	7,544	-562	-1,192
メバル類	1,052	1,172	1,258	-120	-206
スルメイカ	1,595	0	1,256	1,595	339
アオリイカ	1,440	776	1,099	664	341
その他	27,113	20,603	30,665	6,510	-3,552
合 計	45,317	37,039	50,527	8,278	-5,209

全漁法	(kg)				
魚種名	2022年	2021年	平年	前年差	平年差
合 計	673,697	709,804	897,199	-36,106	-223,502

※1 平年の値は2012-2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 ニギスの平年値は2015-2021年の7年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県:11月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府:11月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県:11月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県:11月中旬～12月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マサバ5.8t、カタクチイワシ5.4t、ブリ2.9t、シイラ2.9t、サワラ類1.8t、アオリイカ1.4t
 京都府…定置網…ブリ類7.5t、サワラ類7.1t、サバ類3.8t、アカカマス1.2t、メジナ0.89t
 兵庫県…定置網…スズキ68kg、ツバス70kg、マアジ52kg、ウルメイワシ35kg、アオリイカ33kg、サワラ10kg
 鳥取県…まき網…マアジ8.4t、ブリ類7.7t、マサバ6.7t、ウルメイワシ0.2t

養殖試験におけるイワガキの成長（その2）

【はじめに】

水試だより 84 号では海域ごとの成長について報告しました。養殖試験では数種の養殖方法による試験も行っており、今回は養殖方法の違いによる成長について紹介します。

【養殖方法】

養殖試験に用いた養殖方法は以下のとおりです。①ホタテ垂下式（写真 1）：カキが付着したホタテ殻をロープに挟み込み吊るす、カキ養殖でも高い割合を占める古典的な養殖方法です。②網カゴ垂下式（写真 2）：シングルシード*を網カゴに收容して垂下する養殖方法です。③バスケット垂下式（写真 3）：シングルシードを樹脂製のバスケットに收容し、水面近くで揺らしながら養殖する方法です。

*シングルシードとは、1 個ずつバラバラになるように稚貝を基質から取り外したものです。



写真1 ホタテ垂下式



写真2 網カゴ
(シングルシード 30 個体)



写真3 バスケット
(シングルシード 30 個体)

【養殖方法ごとの成長】

○殻高

令和元年度に生産した種苗を令和2年4月から水産試験場（敦賀市浦底）前の筏に垂下し、約3ヶ月毎に殻高を測定しました。令和4年7月時点での殻高の成長を図1に示します。

いずれの養殖方法でも100mmを超えましたが、ホタテ垂下式が最も良い成長となりました。ホタテ垂下式は、シングルシード養殖よりも餌が届きやすいため成長がよいと知られており、今回はその知見に合致する結果となりました。

○重さ

試験は殻高と同様です。同じ時点での殻付き重量および軟体部重量を図2に示します。

シングルシード養殖に着目すると、網カゴによる養殖は殻付き重量が高い一方で、軟体部重量が低いため身入りは最も低い値となりました。バスケットでは、イワガキが転がることで殻が削れて丸みを帯びた形状となり、その効果として殻付き重量に比して身入りが良くなったと推測されました。シングルシード養殖は、ホタテ垂下式養殖に比べて手入れ（カゴの清掃・交換）の有無により成長や身入りが左右されることが知られています。今回の試験ではカゴやバスケットの付着物が多かったことから、手入れを行なうことにより成長が促進される可能性があると考えています。

水産試験場では今後、高成長イワガキの種苗生産技術開発とともに最適なイワガキ養殖方法の検証を進めていきます。

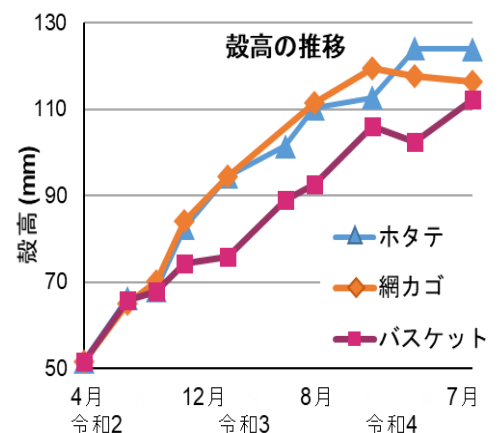


図1 養殖方法ごとの成長

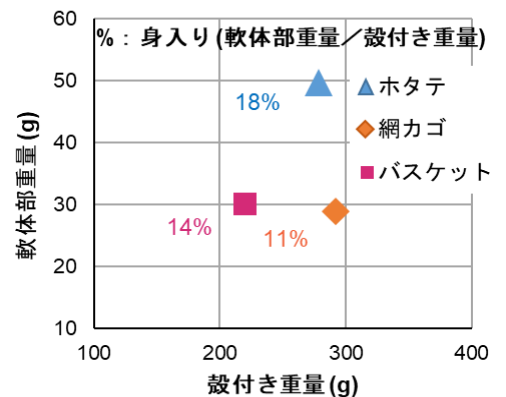


図2 養殖方法ごとの重量

(栽培漁業センター 技術開発グループ 原)